

Library News



京教図書館 News

2005

11

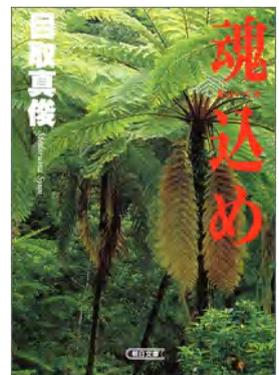
トピックス

★ 11月の講習会 ★ 教科書展 (11/8~11/14)

■ 私のすすめるこの1冊・・・日比 嘉高 (国文学科 講師)

目取真 俊 (めどるま しゅん) 『魂込め (まぶいぐみ)』

図書館長の奈倉先生からこの欄に書いてくださいというメールをもらったとき、ひびさんは最初『風の谷のナウシカ』の漫画版のことを書こうと思った。ひびさんは、それが近代日本屈指の名作だと大まじめに思っているからなのであったが、書こうと思ってハタと止まった。いやいやいやいや、まてよ。ナウシカ漫画版の評価なんて、もういまさらここに書くまでもないレベルの話だよ、うちの図書館にも配架されてるくらいだし、うん。ひびさんは自分の感覚がたまに普通の人とずれるということに無自覚なので、独り合点してこの案を却下した。どーすっかな、と考えたひびさんの前に、沖縄の海が広がった。「美(ちゅ)ら海」。ああオキナワ……。ひびさんの中ではしばらく前から時ならぬ沖縄ブームが到来しており、パソコンの壁紙も、しっかり沖縄の海景色になっているのである。目取真俊(めどるま しゅん)だ。現代沖縄を代表する作家。作品も文庫になっていて手に入りやすいし、何より、面白い。適切で美しい描写に、ウチナーグチ、ウチナーヤマトグチの台詞がハイブリッドに混じる。ストーリーは、現代の沖縄社会に、歴史的な過去が、人々のそして土地の記憶として、鋭く陥入する構造をもつ。生き生きとして、そして残酷だ。沖縄を青い海とちゅらさんとオレンジレンジと泡盛の島だと思っている人は、黙って『魂込め(まぶいぐみ)』や『水滴』を読むべし。ひびさんは実はまだ沖縄に行ったことがないらしいのだけれど、そのことについて不問に付しているようである。沖縄にどう向き合うか。ヤマトと中国とアメリカという海の向こうから来る大きな力に絶えず翻弄され、そして今も揺さぶられ続けている島々。その歴史を知り、人々の思いを知り、その文化を知ることは、我々——「我々」って誰だ、ところで?——の〈現在〉という足元を考える作業につながって来ざるをえないはずなのだ。今すぐ書店へ、図書館へ走れ、読者諸賢。ちばりよー。ひびさんは来年こそは沖縄に行って日常業務を放念してのんびりしてやると心に誓いつつ、[送信]ボタンを押した。奈倉先生、よろしくお願ひします。



購入手続中

著者：目取真 俊 出版社：朝日新聞社(朝日文庫) ISBN: 4022643013 出版年：平成 14 年 価格 504(税込)

※参考図書 『水滴』文春文庫 460(税込)

注) ※ウチナーグチ(沖縄言葉) ※ウチナーヤマトグチ(沖縄言葉と標準語の交じった言葉) ※ちばりよー(頑張れ)

■ 図書館のニュース

1. 11月の講習会

* 事前申込み不要です。開始時間までに直接図書館カウンター前にお越しください。*

論文検索・収集法講座

データベース CiNii を使った雑誌論文の検索から実際の入手方法まで、パソコンを使って実習形式で説明します。

日時: 11月2日(水) 10:30-11:00、 11月7日(月) 10:30-11:00、
11月15日(火) 14:35-15:05、 11月24日(木) 16:20-16:50

電子ジャーナル講習会

パソコンから読める雑誌＝電子ジャーナルの利用方法について説明します。(日本国内の電子ジャーナル＝CiNii については、一部論文検索・収集法講座と内容が重なります)

日時: 11月1日(火) 16:20-16:50、 11月11日(金) 16:20-16:50、
11月21日(月) 14:35-15:05

2. 第10回教科書展のお知らせ

今年は、中等教育用教科書の皮切りとして国語の教科書・指導書を展示します。
ご来館をお待ちしています。

日時 11月8日(火)～11月14日(月)

10:00～17:00

場所 図書館1階ロビー

博物館訪問記 糸魚川歴史民俗資料館《相馬御風記念館》

相馬御風(ぎよふう)は、“都の西北・・・”で始まる「早稲田大学校歌」や“春よこい 早くこい”の童謡「春よ来い」の作詞者として著名である。明治16年7月に御風が誕生した新潟県糸魚川市には「糸魚川歴史民俗資料館《相馬御風記念館》」があり、御風の足跡を辿ることができる。

展示室は御風の小学校時代から始まる。小学校時代の帳面などが展示されている。説明して下さった富岡さんから、御風は正覚寺というお寺で漢学や日本外史を学び、短歌や俳句にも触れるようになったと説明を受ける。御風は、本名を昌治(しょうじ)というが高等小学校の頃に、窓竹(そうちく)と号して短歌を作っている。御風は高田中学に進み国語・歴史の教師・下村千別(ちわき)に短歌を学び、17歳の秋には御風と号するようになっている。御風は、高田中学卒業後、第三高等学校受験のため、京都にやってきて(明治34年6月)、真下飛泉に出会い、短歌の指導を受けている。この相馬御風記念館には、真下が表紙絵を描き、与謝野鉄幹が校閲した御風の自筆歌集『春雨傘』(明治35年3月)を所蔵している。第三高等学校への入学に失敗した御風が、東京専門学校入学のため真下と別れるときに作成したのだろう。(なお、相馬御風記念館には、真下夫妻の写真が所蔵されている。真下が御風に贈ったのだろう。)

展示は、鉄幹の「明星」に精力的に作品を発表していた御風が、「明星」を離れ、仲間と「白百合」を創刊したこと。島村抱月との出会いの中での第二次早稲田文学編集者としての働き。坪内逍遙と島村抱月に依頼された早稲田大学校歌作詞と続いていく。早稲田大学校歌作詞の時には、欧米の大学校歌のレコードを参考にしながら、韻律を作っていたとのことであった。その後、御風は東京を離れ郷里・糸魚川に暮らすようになる(大正5年)。御風の糸魚川での活動が、良寛研究・雑誌「野を歩む者」刊行・短歌グループ「木蔭会」の活動等により展示されている。末筆になりますが当日ご説明いただいた糸魚川歴史民俗資料館《相馬御風記念館》の富岡隆一・主事に感謝いたします。(情報管理係長 菅修一)

参考文献: 『劇画! 相馬御風ー今ここにいる僕』平成15年3月 相馬御風没後五十年記念事業実行委員会 刊

■ 糸魚川歴史民俗資料館《相馬御風記念館》

所在地: 新潟県糸魚川市一の宮1-2-2 電話 025-552-7471

交通案内: JR 北陸本線・糸魚川駅から徒歩約10分

入館料: 一般300円、高校生以下100円

開館時間: 午前9時～午後4時30分

休館日: 月曜日(その日が祝日の場合は開館)・祝日の翌日・12月28日～1月4日

■ 論のくちび理のむすび・・・坂田 薫子（英文学科 助教授）

（本学の先生方が執筆された論文や著書を自らご紹介いただくコーナーです。毎号掲載予定。）

恋という病——ジェイン・オースティンの『説得』について

坂田薫子：京都教育大学紀要 No.107 35-48頁、2005

十八世紀後半から十九世紀前半のイギリスを生きた作家ジェイン・オースティンの『説得』（1818年、原題 *Persuasion*）の題名は、普通、十九歳のヒロイン、アン・エリオットにフレデリック・ウェントワースとの結婚を思い止まらせたレディ・ラッセルの「説得」を指すものと考えられている。しかし『説得』は、小説の冒頭より八年も前に起こったレディ・ラッセルからアンに対しての、他人から行われた説得がもたらした効果よりもむしろ、小説の現在において、ウェントワース大佐が自らの誤りとアンへの愛情を悟る「自己認識」と、アンがもう一度ウェントワースの愛情を信じてみようという決心する「自己説得」の意味を描写したものと解釈するべきである。そういう視点に立って、ウェントワースに自己認識をもたらしたルイーザ・マスグローヴのコップでの転落事故を詳細に分析してみると、ウェントワースのアンチ・ヒーロー性が鮮明になり、アンのウェントワースへの情熱の滑稽さが浮かび上がってくる。本稿では、再会から和解に至るまでのアンとウェントワースの深層心理に探りを入れることで、この小説のヒロインとヒーローに、分別のアン、男らしい英雄ウェントワースという従来の人物評価とは大分異なった（そして大分辛辣な）新しい人物評価を与え、この小説を、とても立派とは言い難い男性を慎重さよりもロマンスで選んでしまったヒロインを描いた、オースティンのかなり辛口の、皮肉たっぷりな恋愛小説として読む可能性を示唆してみせた。

脇役たちの言い分——社会文化史から読み解く『分別と多感』

坂田薫子：京都教育大学紀要 No.107 49-61頁、2005

十八世紀後半から十九世紀前半にかけての英国では、結婚制度に関連した法律と社会規範が創り出した女性性（女性はこうあるべきだという理想像）が、当時の中産階級の女性たちを縛り付け、時として彼女たちの人生を台無しにしていたと考えられている。ジェイン・オースティンが著した『分別と多感』（1811年、原題 *Sense and Sensibility*、邦訳の題名『いつか晴れた日に』）という作品にも、同時代を生きた中産階級出身の女性たちの、女性として生まれてきてしまったが故の無力さが、脇役たちの人生に垣間見られる。オースティンはルーシー・スティールのしたたかな生き方を描くことで、結婚しか選択肢のなかった未婚女性たちは打算で生きていかねば生き残ることがままならなかった社会のしくみを非難する。また、イライザ・ウィリアムズ・ブランドンの数奇な運命を描くことで、オースティンは女性から権利を剥奪し、男性に有利に作られた当時の法律が引き起こした既婚女性の無力さを強調する。そして、この作品でのミセス・ダッシュウッドの取り扱われ方は、当時の未亡人たちは周囲の男性の親族たちの好意を得られなければいかに無力な存在であったのかを、私たち読者に伝えてくれる。オースティンは保守的な作家で、当時の女性性をそのまま受け入れていたと一般的には思われがちだが、『分別と多感』の女性の脇役たちの描かれ方からうかがえるように、彼女は自分の生きていた時代の女性たちが置かれていた状況を実に良く理解しており、彼女たちの苦境を生み出している社会のしくみにいろいろ言い分があったのではないか。本稿では、当時の社会文化史と照らし合わせながら、普段はあまり重きを置かれなかった脇役たちの言い分に耳を傾けることによって、『分別と多感』に、従来とは異なったオースティンの作品理解の可能性を示唆することを試みた。

○展覧会「文化財保護研究履修生による 復元と模写展」の終了

平成17年10月18日から10月28日までの間、美術科の協力を得て文化財保護研究履修生の授業の成果を発表していただきました。学生参加の企画は初めての試みです。作品は繊細な筆遣いと根気強さが偲ばれ、そしてそれが生き生きと蘇る、素晴らしい制作活動が本学にあることを知りました。このような教育分野があることは教育大学の幅の広さであり、奥の深さでもあると思います。これを機会に、学生や学生団体、また学科・研究室の日頃の活動成果を発表する場として図書館を利用してくださいようお願いします。

○うたとよみきかせの会を実施

平成17年10月30日（日）13時から、図書館視聴覚室において、幼児を対象に、附属図書館と幼児教育科平井研究室共催の「うたとおはなしの会」を開催しました。幼児9名、保護者8名の参加があり、幼児教育科学生3名により「うた」「よみきかせ」「ペンダントづくり」などが行われ、参加者はたのしい時間を過ごしました。

■ 図書館開館スケジュール

(通 常)

開館時間 : 9:00

閉館時間 : 21:00

一部期間は17:00に閉館します。
下記カレンダー「~17:00」と記載

2005		11		平成17年									
日	SUN	月	MON	火	TUE	水	WED	木	THU	金	FRI	土	SAT
				1	2			3	祝	4		5	
								休館					~17:00
6		7		8	9			10		11		12	
休館													~17:00
13		14		15	16			17		18		19	
休館													~17:00
20		21		22	23	祝		24		25		26	
休館					休館								~17:00
27		28		29	30	整							
休館					休館								

11/30(水)は、館内整理のため休館します。

11/13(日)は、教科書展のため開館しますが、通常業務(貸出等)は行いません。

2005		12		平成17年									
日	SUN	月	MON	火	TUE	水	WED	木	THU	金	FRI	土	SAT
								1		2		3	
													~17:00
4		5		6	7			8		9		10	
休館													~17:00
11		12		13	14			15		16		17	
休館													~17:00
18		19		20	21	整		22		23	祝	24	
休館					休館					休館	休館		
25		26		27	28			29		30		31	
休館		~17:00		~17:00	休館			休館		休館		休館	

12/21(水)は、館内整理のため休館します。

12/24(土)及び12/28(水)から1/4(水)の間は冬季休業のため休館します。

真下飛泉関係著作展終了報告

平成17年9月12日から開催の展示は10月13日に無事終了いたしました。会期中は歌「戦友」に思い出をお持ちの高齢者の皆様を中心に多数の市民の方がお越しくださいました。あるご婦人は「子どもの頃、学校でみんなで歌った忘れられない歌」とお話になりました。シベリアに抑留され亡くなられた方の遺族の方は「戦友」の歌詞・終章のあたりになると、涙ぐまれるとのことでした(京都シベリア抑留遺族の会・会長 亀井励様の話)。アイ・ジョージは昭和37年に大阪労音で「戦友」を歌ったとき、「軍歌だと思わないで聞いて下さい。これは心の歌です」と語ったといひます(読売新聞文化部著『愛唱歌物語』岩波書店2003年刊 pp.226-229)。展覧される方々のお話を伺いながら、「戦友」は本当に「心の歌」なんだなと思いました。

会期中、9月27日には展示目録にご寄稿いただきました前田愛子先生(『歌え、わが明星の詩』著者)ご夫妻が、また、10月5日には宮本正章先生(『真下飛泉 その生涯と作品』著者)ご夫妻が観覧してくださいました。

また、飛泉に戦場での経験を語り「戦友」が出来るきっかけを作った木村直吉氏の孫・福田俊一郎さんが9月30日にお越しになり、祖母を通して聴かれた木村直吉氏の話をお話してくださいました。真下飛泉の養嗣子・真下和夫氏の長女・岡野孝子さんが9月26日にお越しくださいました。長男の秀夫さん・次男の明夫さんには「真下飛泉関係著作展目録」をお送りしたところ丁寧なお礼のメッセージをお寄せいただきました。主催者として反響の大きさに驚いています。



平成17年度図書館実習を実施

附属図書館では、10月17日(月)から21日(金)の間、同志社大学から3名の実習生を受け入れ、図書館実習を実施しました。利用者の皆さん、ご協力ありがとうございました。

京教図書館 News No.62 2005年11月号 編集発行：京都教育大学附属図書館

発行日：平成17年11月1日 内容に関するお問い合わせ先：附属図書館(内線8176)